

# 企業最前線

熊谷支店発

～企業の現場に迫る

## 第109回 ラジエンスウエア(株)

～医療クラウドと、病院ICT化支援でQOLの向上に貢献～

最近になり、医療データの安全保存とクラウド化のニーズが高まっている。病院ICT（情報通信技術、Information and Communication Technology）化の重要性は以前より指摘されているものの、なかなか進んでいない現状がある。医療クラウドを手がけ、その経緯から先陣を切って積極的にサービス提供を行い、これらの問題点に対しきめ細かく分析し支援しているラジエンスウエア(株)を紹介したい。

— ラジエンスウエアではどのような事業を行っていますか？

当社は医療機関様が地域へ良質な医療を安全に提供できる仕組みづくりのお手伝いをしています。特に、医療専用クラウドを利用したサービス事業に力を入れています。

この事業は、東日本大震災の後、急速に需要が伸びてきました。

よく心配される個人情報、安全なデータセンターに保存しています。セキュリティー面でも早稲田大学との共同研究で分析した最先端の技術を活用するなど万全に行っています。

サービスの事例として「画像配信システム」は救急医療現場でCT画像を専門医へ送り、リアルタイムで判断し指示を受けることで、救命率を上げる効果があります。これは3年前より山梨大学医学部と早稲田大学大学院と、当社による共同研究で開発したシステムです。山梨大学では、昨年より本格的な事業展開を始めており、今後は山梨県全域に展開させる予定です。

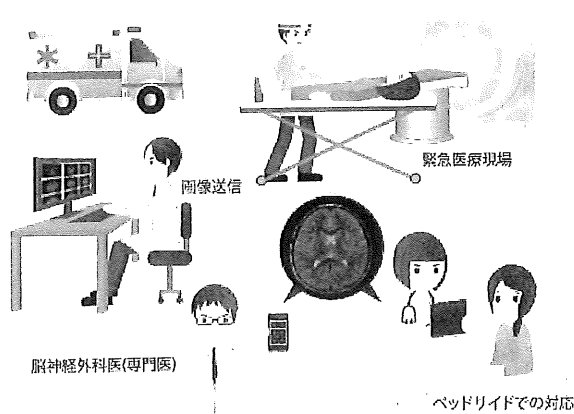
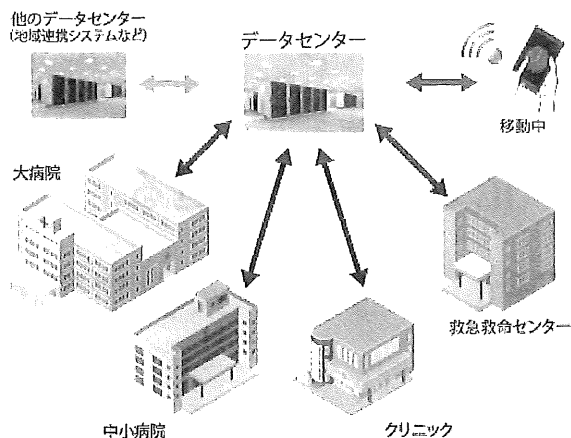
同様に、「地域医療介護ネットワークシステム」



代表取締役 中嶋吉男氏

は、在宅患者さんの「主治医」「歯科医」「薬剤師」「訪問看護師」「介護関係者」などが参加してチームで支える仕組みを提供しています。

また、病院で蓄積したデータも、災害や火災、事故などで破壊されてしまうと、全く運用できなくなる危険があります。そのため、院内のデー



タを医療クラウドへ安全に保存するサービスも手がけています。

さらに手がけているのが病院ICT化を支援するコンサルタント事業です。

国内には一般的に会計業務や医療機器のコンサルタントはたくさんいらっしゃいます。しかし、医療情報を主軸に病院内を改革させていく方は少ないため、当社は全国から引き合いがあるのでしょう。

その他、レセプトコンピューター、電子カルテ、データファイリングなどを構築し導入支援する医療情報総合ソリューション事業も行っています。

— ラジエンスウェアの特徴を教えてください？

当社はモットーに掲げている「最高のサービ

ス」を目指しています。

さまざまな状況に置かれている患者さんへ良質な医療を提供している病院スタッフにとって過酷な場面が多々あります。私たちはそのスタッフを支える立場なので、どんな状況であっても最善を尽くす気構えで業務にあたっています。したがってスキルを向上させることはもちろん、精神面でも強くなれるように指導しています。

また、当社の基軸は「ITアナログ集団」です。

医療現場は人に対してぬくもりのあるサービスが求められます。そこで、私たちは、最先端のITを活用しながら、人間に備わっている優れた能力が活用できる仕組みを提案しています。

ICTを活用する場面では「いつでもどこからでも」簡単に使えて便利なツールの提供をしています。医療情報において難しいとされているクラウド化を実現させました。

— 病院ICT化コンサルティングとはどのような仕事ですか？

病院は医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、医療事務、など専門部門がたくさんあることからICT化を進めるには多くのハードルとリスクがあります。

その上、病院にはICT化に詳しい方がいないこともあり、委員会を立ち上げて右往左往するだけでなかなか前へ進まないのが現状です。し

## ラジエンスウェア(株)

【企業コード】910024341

【本 社】児玉郡上里町堤696-7

【設 立】2000年(平成12年)1月

【資 本 金】8375万円

【代 表 者】中嶋 吉男氏

【収 入 高】2億8000万円(2013年9月期)

【U R L】<http://www.radianceware.co.jp>

かたなく、導入業者へお任せした時は、高額の導入費用を支払う割にできないことが多いケースがあります。

そこで、当社の専門スタッフが病院と導入業者の間に立ち、仲介役をすることで導入作業がスムーズになった実績をもっています。

市場で販売されているソフトやシステムはたくさんあります。当社は病院の規模や要望を調査しながら、どのメーカーのどのソフトなら最適かを見極めて提言します。

また、ICT化を構築し導入した後、システムを上手に活用するための検討会を立ち上げて継続して支援を行います。特に勤務医の負担を軽減させる医療クラークの活用には力をいれています。結果的に満足いくシステムを当初の3割以上安く導入できた実績が多くあるのです。

以上のことから、コンサルティングの費用に対する効果について高い評価を得ています。

— 医療業界は今後どのような方向に進むと考えていますか？

2025年には団塊の世代が後期高齢者となることを見据えて、厚生労働省は「医療から介護へ」「施設から地域へ」の政策を打ち出しています。これに伴い、「チーム医療」→「情報の共有化」→「ICT化」は急がれています。したがって、今後10年、20年とICT化の需要は増え続ける

と見込んでいます。

一方で、医療と健康は全ての人にかかわり関心が持たれています。そのため、QOL (Quality of Life) の向上には家族が健康で安心して生活できる仕組みが必要です。自費を含めた混合診療も採用されるとサービス提供も多様化してくると同時に最先端の医療提供も求められます。

「ビッグデータ収集」「診療データの活用」といった需要も見込まれますね。個人情報の保護を含めて、セキュリティーの確保や監視体制も重要になっています。

— ラジエンスウェアの展望について教えてください？

外部環境を見渡すと、当社が長年にわたり地道に培ってきた技術やノウハウは、今後、ますます需要が高まると予想できます。

また、最近、国立大学系や公立病院からの引き合いも多くなっています。これは当社が医療現場に積み重ねてきた実績を評価されていると実感しています。

幸いにも、当社の社員は30代半ばをトップに20代が大半を占めている若い集団です。したがって当社は、医療現場の特色を踏まえた社員教育を続けることで、医療業界のリーダー的存在になると確信しています。

